

別記様式（第4条関係）

会議録

会議の名称	第4回加東市都市計画マスタープラン策定委員会
開催日時	平成30年11月28日（水） 午前10時00分から午前12時00分まで
開催場所	加東市役所3階 302号会議室
委員長の氏名 中山久憲 出席及び欠席委員の氏名 出席：中山久憲、高木厚子、宮崎良平、廣畑貞一、神戸 仁、白井伸幸 欠席：山本正仁、藤原博幸、萬谷信弘	
説明のため出席した者の職氏名 —	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 <事務局> 技監 岸本至泰、都市整備部長 藤井康平 都市整備部都市政策課：課長 長谷田克彦、副課長 藤原敬子、主査 藤井康孝、 主査 丸山聡司、主事 伊藤充紀 <加東市都市計画マスタープラン等改定支援業務 委託業者> 株式会社エイト日本技術開発：中井二郎、高木悠里、竹添敏仁	

【報告事項】

- (1) これまでの検討経緯
- (2) 都市計画マスタープランの将来像・基本方針・将来都市構造について
- (3) 都市計画マスタープラン素案について

【会議の経過】

1 開会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 報告事項

＜前回指摘事項の報告＞

(説明)

事務局から、前回委員会での質問（工業団地に立地する企業について、立地期間の制限を設けることは可能か）に対する回答を報告。

＜都市計画マスタープランの構成について＞

(説明)

事務局から、これまでの検討経緯について、説明を行った。

(質疑応答)

委員：滝野駅周辺地区は、電車の便が悪く、不便である。車社会のため、公共交通の充実ではなく、道路整備を進めるべきではないか。

事務局：滝野駅周辺は市街化区域である。県道沿いや区画整理地には、住宅だけでなく、飲食店・店舗等が立地しているが、未利用地が残っていることから、民間による店舗立地等を誘導できると考える。社町駅は市街化調整区域であるが、バス・駅ターミナル周辺区域の特別指定区域に指定しており、住宅や店舗等の立地が可能な区域指定を行っている。駅周辺の土地利用としては、住宅や店舗、商業施設を誘導し、駅周辺に人が集まると良いと思っている。インター周辺についても市街化区域であり、民間開発で建てることのできる。そういう意味では、市街地全般において、未利用地に民間を誘導することで開発を誘導できればと思っている。また、案にもあるように、Bioをまちの拠点として、市内各拠点を公共交通で結んでいく形で検討している。

道路整備については、国道372号バイパスの整備がされたりと、県の方でも道路の整備を進めている。そういった道路のインフラ整備なども長期的に進んでいくと思われるので、車をはじめ、公共交通の整備についても、公共交通網形成計画に基づいて進んでいくと考えている。

委員：都市計画マスタープランの内容には、市単独で実施するものと、近隣市町と連携して実施するものがあると思うが、教えてほしい。

立地適正化やコンパクトシティやネットワーク化についての考え方を取り入れてほしい。

各地域にソーシャルリソースがある。都市計画マスタープランの中で、ソーシャ

ルリソースを掘り起こして、まちづくりを考えてほしい。

市の施設・設備と、兵庫教育大学の施設・設備を市民・大学生が双方に活用することができないか。大学の施設整備について、加東市のまちづくりの中に盛り込むことによって、双方が良くなっていくのではないか。うまく未来像の中に落とし込んでいくべきである。

委員長：具体的な事項は、報告事項3、都市計画マスタープラン素案の説明とあわせて議論したい。

委員：社商店街の活性化が要望されているが、現実には難しい。民間の力が結集しやすい環境、企業が活動しやすい環境を整えることが必要であり、そのためには、土地の流動化を図るべきと考える。

委員：駅からBio周辺、滝野社ICは、どうやって連携するのか。

また、公共交通よりも道路整備を重視すべきでないかとの意見があったが、高齢者が自分で車を運転できなくなった場合、公共交通が必要である。まちづくりの中で対応していかななくてはならない。

以前の委員会では、外国人労働者との連携や自転車の導入・活用といった話が出ていた。このような話は、都市計画マスタープランにはなじまないかもしれないが、どのように扱うのか。また、Bio周辺の「多様な都市機能」とは、商業と交通以外にどのようなものを考えているのか。

また、社町駅へのアクセス路になっている加古川上の橋梁（県道204号）が老朽化しており、将来的に撤去される恐れがある。その場合、駅周辺をどうするのか検討されているか。

参考資料のうち「素案反映」欄が「×」になっているものについて、何らかの対応を行っていくものは、「×」ではなく、表現を改めてはどうか。

委員：宿泊施設誘致の話があるが、都市計画マスタープランの中で、誘致先となる具体的な場所まで記載するのか。

事務局：現在調査中である。

委員：ワークショップでは、「駐車場の充実」といった意見が出ている。加東市の強みは、広域交通の利便性である。市内だけでなく、市外とのつながりも含めて、道路整備などを検討していただければと思う。

<都市計画マスタープランの将来像・基本方針・将来都市構造について>

<都市計画マスタープラン素案について>

（説明）

事務局から、都市計画マスタープランの将来像・基本方針・将来都市構造及び都市計画マスタープラン素案について、説明を行った。

（質疑応答）

委員長：先ほど皆さんから意見をうかがったが、素案に反映されているものも多くあったと思う。この素案をまとめて委員会で策定をし、パブリックコメントや市議会に諮っていく必要がある。今後、本日欠席された方も含めて、改めて市から皆様へ意見をうかがうので、その意見を踏まえてマスタープランをとりまとめてほしい。

委員長：この場で、いくつか指摘しておきたい。計画書の中で大学の話が出ているが、資料3のP1-10土地利用方針図中には大学の位置が明示されていない。またサービスエリアの位置や駅名が示されていない。また、今後はバスが主要な公共交通機関になると思うが、図に見えてこない。

P1-16 にパーク＆ライドとあるが、パーク＆バスライドの方が適切ではないか。防災について、都市計画の立場からは、山林の斜面地における住宅建設の規制など、規制が重要である。そういった施策も必要ではないか。実現化方策では、市民・大学・事業者等との連携が必要とあるが、これを実現させるためには、市民参画条例やまちづくり条例等の策定ができないか。最後に、本市では、都市計画区域が2つある。1つの市に合併したので、都市計画区域を再編するべきではないか。将来の課題として、県と調整していくことなどを位置付けておいてはどうか。

委員：高齢者の増加に備えて公共交通を充実していくことは重要であるが、10年後、20年後には、自動運転が導入される可能性がある。自動運転が現実になった際に対応できる道路整備を今から考えておくべきではないか。

委員長：加東市単独で考えられることではないが、将来を見据えておくといよい。都市計画の立場からは、歩道を設置して車椅子でも通行できる道路整備等が重要である。

委員：新しい工業団地の候補地が3箇所検討されていると聞くが、都市計画マスタープランの中で1つに絞るのか。

地域別構想について、現行の計画から地域区分が変わった考え方を示してほしい。また、地域の課題を各課ヒアリング等で把握されていたと思うが、計画書の中では記載が少ないように思う。

また、広域交通の中では社町駅が位置付けられていると思うが、社町駅は市街化調整区域であり、市街化区域には滝野駅がある。このように、市街地の広がりや広域交通網の軸を、今後調整していくべきかもしれない。

委員：今後、Bio周辺をどうしたいのか。何年先の話なのか。Bio周辺は農地であるため開発ができない。市街化区域の滝野の方が開発しやすいのでは。

事務局：都市計画マスタープランは、10年、20年先の未来を見据えた計画である。将来、農地の規制緩和など、制度面も変わっているかもしれないので、そのような場合も見据えて位置付けておきたい。また、今後バスターミナルを整備する計画があるので、市街化区域への編入や地区計画の指定等も含めて検討したい。

委員：10年後には、市内の商業は大きく変わっているだろう。10年待てない。Bioが無くなっているかもしれない。それならば、もっと早く活性化できる市街化区域内の低未利用地の活用等に注力してはどうか。

委員長：都市計画マスタープランに記載することで、将来の制度改正等に対応できるといった考え方がある。そういった意味では、マスタープランに位置付けておくことが重要である。

委員：地域の将来を語り合うことが、子供へのふるさと教育につながる。可能であれば、教育委員会と連携して、学校の中で地域の未来について語り合うことができる機会をつくることができるとよい。

5 閉会

【資料名】

資料1 これまでの検討経緯

資料2 都市計画マスタープランの将来像・基本方針・将来都市構造

資料3 都市計画マスタープラン素案

参考資料 まちづくりワークショップ結果概要

平成 3 / 年 / 月 30 日

委員長 中山久慈



副委員長 高木厚子

